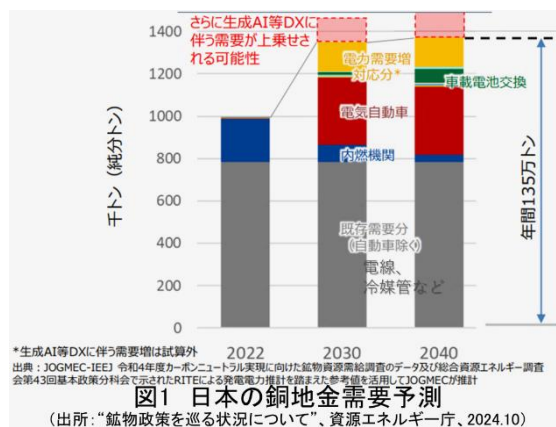


ネットゼロ社会に欠かせない銅リサイクル

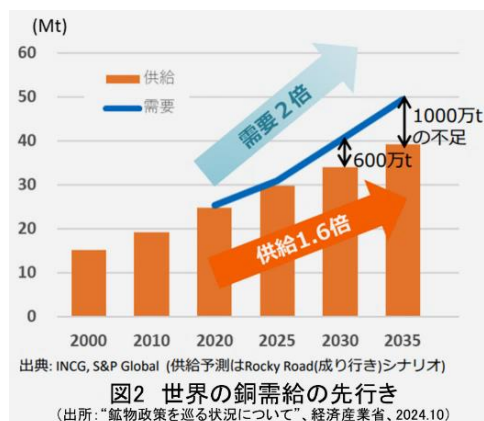
◆クリーンエネルギー向けなどに銅需要増を予測する日本

資源エネルギー庁は2024年10月、EVや再エネ、先端半導体の需要が増え、銅の確保が日本の課題となると示した。25年2月発表の第7次エネルギー基本計画でも、銅価格が20年から24年に5倍となった状況を踏まえ、銅の確保の必要性が訴えられている。国際エネルギー機関(IEA)の「50年までのネットゼロエミッション」シナリオ(24年5月発表)では、40年には、世界の銅需要の50%がクリーンエネルギー向けになると示されている。



◆銅の需給安定化には国や地域での循環経済の形成が必要

世界で銅採掘が減り、銅の大幅な供給力不足が予測されており、各国で銅の資源確保策が相次いでいる。EUは24年5月に重要原材料法で30年までに銅のリサイクル率を25%とし、域外依存を消費量の65%以下にする目標を設定した。米国はエネルギー法で規定している重要原材料に銅を23年に追加した。中国では21年から銅スクラップ含む固形廃棄物の輸入を禁止していたが、24年11月に銅スクラップについては輸入を自由とすることとした。



世界資源研究所(WRI)は25年1月、それぞれの国や地域で銅リサイクルを促進すべきとする調査報告を発表した。今後10年、使用済みになるEVのバッテリー電極やコイル、太陽光パネル配線などから銅が大量に発生する。低品位銅のリサイクル処理技術、純度選別などに加え、回収収集、輸送、リサイクルの各段階で利益を生む強固な循環経済を成立させ、銅のリサイクル率を倍増(世界平均では現在32%から66%)させることが肝要であるとしている。【新井喜博】